

高等学校

令和7年度（2学年用）

教科

公民科

科目

公共

教科：公民科

科目：公共

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：（1組：古橋 ） （2組：古橋 ） （3組：古橋 ） （4組：古橋 ） （5組：古橋 ） （6組：古橋 ）

使用教科書：（ 高等学校 公共（第一学習社） ）

教科 公民科

の目標：

【知識及び技能】社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。

【思考力、判断力、表現力等】国家及び社会の形成者として必要な概念や理論などを活用して、現実社会における複雑な課題を把握し、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、その妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断している。

【学びに向かう力、人間性等】よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

科目 公共

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的 原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。 ・公共的な空間において社会に参画する自立した主体となるために、青年期を生きる私たちは、何を考え行動すればよいかを理解する。 ・公共的な空間で生きていくために必要なこととして、個人として尊重されることや、対話を通して他者を理解することを学ぶ。 ・伝統や文化と、自らの行動様式や考え方との関係について理解する。 ・生涯にわたって学習していくことの意義を考える。	I-①社会に生きる私たち I-②個人の尊厳と自主・自律 I-③多様性と共通性 I-④キャリア形成と自己実現 II-①伝統や文化とのかかわり	【知識・技能】 ・人生の中で青年期はどのような意味をもつのか、自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としてのあり方生き方について理解している。 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いのさまざまな立場を理解し高めあうことのできる社会的な存在であることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えている。 ・孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生きるとともに、異文化などの他者との協働により、人間としてのあり方・生き方を多面的・多角的に考察、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともに、よりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。 ・伝統や文化と自らの行動様式や価値観との関係について考察している。	○	○	○	11
	・法やルールを定める時には、どのようなことに配慮する必要があるかを理解する。 ・身のまわりの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について理解し、その解決策を考える。 ・安全で豊かに生き、法をよりよいものにするための権利や、それを実現するための法・規範を理解する。 ・なぜ契約が生まれ、契約を守ることが大切なのかを理解する。 ・消費者主権を実現するために、消費者に関する法律が定められていることを理解する。 ・個人や社会の紛争を法に基づいて公正に解決するために必要なしくみと、国民が果たすべき責任を理解する。 ・なぜ裁判所が必要なのか、司法権の独立や裁判所のしくみ、最高裁判所の違憲審査権から理解する。	主題1 法や規範の意義と役割 ①私たちの生活と法 ②法と基本的人権 ③自由・平等と法・規範 ④法をよりよく変えていくために 主題2 契約と消費者の権利・責任 ①さまざまな契約と法 ②消費者の権利と責任 主題3 司法参加の意義 ①裁判所と人権保障	【知識・技能】 ・法や規範の意義及び役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・法には国家と国民の間を規律する公法や、私人間を規律する私法などがあること、法は刑罰などによって国民の行為を規制し社会の秩序を維持するだけではなく、国民の活動を積極的に促進し、紛争を解決するなど、日常生活に密接に関連していることを理解している。 ・基本的人権が保障されるにいたった経緯を、現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・生徒に身近な紛争や課題を取り上げ、どのようにすれば公平・公正に調整できるのか、主体的なルールを作成・利用することで考察、構想、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・法をよりよく変えていくために、自由権の意味や、社会権が私たちの生活をどのように変えたのか、新しい人権とは何かをさまざまな立場に立って考察している。 ・幸福、正義、公正などに着目して考えている。 ・法や規範の意義と役割について、現代の諸	○	○	○	11

2 学 期	・民主政治を推進するために、私たちが果たすべき責任を理解する。 ・選挙の意義や課題，世論の形成や政党の役割を理解する。 ・主権者である国民と国会・内閣の関係を理解する。 ・地域社会の課題に，私たちの意思を反映させるにはどうすればよいかを理解する。 ・日本国憲法の平和主義の下，私たちが果たすべき責任を理解する。 ・日本の安全保障体制の変容とその背景にある国際社会の変化を理解する。 ・軍縮に向けて国際社会や私たちには何が必要かを考える。 ・国際社会を実現するために必要な日本の役割を理解する。 ・今日の国際社会の特徴について理解する。 ・人種・民族問題と地域紛争の背景，現状を理解する。 ・公正で自由かつ市場が効率的な資源配分を実現できるしくみと，経済における政府の関わり方についてを理解する。 ・市場における需要と供給，市場の失敗について理解する。 ・国民所得や景気変動を理解し，経済指標について考える。 ・金融市場の役割と，中央銀行の金融政策を理解する。 ・金融について理解し，投資の意義や必要な考え方を理解する。 ・財政や社会保障を持続可能なものにするために，政府はどのような役割を果たしていくべきなのかを理解する。 ・財政の意義やしくみ，日本の財政の課題を理解する。 ・社会保障の意義やしくみ，日本の社会保障制度の課題を理解する。	主題4 政治参加と公正な世論形成 ①選挙の意義と課題 ②政治参加と世論形成 ③国会と立法 ④内閣と行政の民主化 ⑤地方自治と住民の福祉 主題6 日本の安全保障と防衛 ①平和主義と安全保障 ②核兵器の廃絶と国際平和 主題7 国際社会の変化と日本の役割 ①今日の国際社会 ②人種・民族問題と地域紛争 ③国際社会における日本の役割	【知識・技能】 ・政治参加と公正な世論形成に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・選挙権年齢が18歳以上であることを踏まえ，選挙の意義や，政治的無関心の危険性などについて理解している。 ・国会の地位と構成・権限，議院内閣制のしくみ，内閣総理大臣の権限，行政の民主化について，理解している。 【思考・判断・表現】 ・選挙のしくみ，政党の役割，世論の形成について，さまざまな情報手段を活用して，考察，構想し，表現している。 ・地方自治には，直接民主制の考え方に基づくしくみが，国政よりも多く取り入れられていることを理解しつつ，地方自治の課題についても考察，構想し，表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・政治参加と公正な世論形成について，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	16
		主題10 市場経済の機能と限界 ①市場経済と経済運営 ②市場経済のしくみ ③経済発展と環境保全 ④経済成長と国民福祉 主題11 金融のはたらき ①金融の意義や役割 主題12 財政の役割と社会保障 ①政府の経済的役割と租税の意義 ②社会保障と国民福祉	【知識・技能】 ・経済の基本的なしくみと資本主義経済，社会主義経済の特徴を理解している。 ・市場経済の機能と限界に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・金融のはたらきに関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・資金の流れ，金融機関の役割，日本銀行の役割について理解している。 【思考・判断・表現】 ・価格の変化が，消費者と企業の行動にどのように影響を及ぼしているか，さまざまな観点から多面的・多角的に考察，構想し，論拠をもって表現している。 ・市場機能の限界に対する公共財の供給について，政府の役割を多角的に考察，構想し，論拠をもって表現している。 ・外部不経済の典型例である公害について理解し，公害を防止し環境を保全するための方策について考察，構想し，論拠をもって表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，合意形成や社会参画を視野に入れながら，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・経済成長が生活に与える影響を，具体的事例をあげて考察している。 ・市場経済の機能と限界について，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・金融のはたらきについて，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	16
3 学 期	・経済がグローバル化の中で，貧困や格差などの問題を乗り越え，すべての人が幸福に暮らすために，国際社会や私たちがどうあるべきか考える。 ・自由貿易と保護貿易の違いについて考え，自由貿易を進めるための国際機関の機能と役割を理解する。 ・外国為替相場の変動がおよぼす影響やその要因について理解する。 ・経済のグローバル化が日本経済にどのような影響をおよぼしているかを理解する。 ・地域的経済統合のメリット・デメリットを理解し，日本のこれからの貿易政策はどうあるべきか考える。 ・国際社会における貧困や格差の原因を理解し，発展途上国の経済成長のために何が必要かを理解する。 ・経済発展の負の影響として，地球環境問題や資源・エネルギー問題を理解する。	主題13 経済のグローバル化 ①国際分業と国際貿易体制 ②国際収支と為替相場 ③経済のグローバル化と日本 ④地域的経済統合の動き ⑤国際社会における貧困や格差 ⑥地球環境問題 ⑦資源・エネルギー問題 ⑧国際社会のこれから	【知識・技能】 ・経済のグローバル化に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・グローバル化の進展により，貧困や格差の問題，地球環境問題などの解決が，地球的な課題となっていることを理解している。 ・地域的経済統合がもたらす影響について理解している。 ・国際社会における貧困や格差が解消されていない現状について，国際機関の役割や政府開発援助の意義が大きいことを理解している。 ・資源の有限性を理解しつつ，新エネルギーなどの開発が期待されていることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・貿易の意義，円高・円安が生じる理由，貿易摩擦などについて，考察，構想し，表現している。 ・国際経済問題の解決には，国家や国際機構などの多様な組織による協力が重要であることを理解している。 ・地球環境問題が国際的な問題になっていることや，その解決に向けての取り組みを考察，構想し，表現している。 ・地理など他教科で学んだ知識もふまえ，幸福，正義，公正などに着目して，政治分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ，多面的・多角的に考察し，表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・国際協力のあり方，国際協調の重要性か				14
							合計